

吹奏楽団オデッセイ

ODYSSEY WIND ENSEMBLE

出演者

Conductor	Bass Clarinet	Trombone
佐藤 俊介	飴谷 佳央里	石井 百菜美
Flute	★飴谷 純一	鈴木 英未
城 和歌子	溝口 彩果	瀬戸 郁
田畑 遼太郎	Saxophone	土肥 有理
野澤 月子	梶谷 日奈子	南雲 茉美花
★芳賀 百菜	野口 紗希	★三田 真史
水野 邑美	★山本 茜	Euphonium
柳田 小晴	渡部 陣悟	石山 久美
Oboe	渡部 春菜	林 哲広
富川 いず美	Trumpet	Tuba
English Horn	狩野 瑞穂	帯川 純平
♪伊藤 智美	小島 友紀	★佐藤 衛
Fagotto	田山 謙太郎	♪中野 伊吹
♪加納 沙斗美	谷田部 典子	String Bass
♪北口 智子	横松 恵理子	川村 歩実
Contra Fagotto	若杉 侑加	Percussion
♪奥田 三香子	★若林 孝介	大内 莉恵
B♭Clarinet	Horn	♪佐々木 和奏
大宮 栞	★浅井 大輔	★菅野 ひかる
小川 敬輔	江坂 悠	♪中島 希実
上家 彩華	小野瀬 春香	西田 菜緒
佐藤 なほか	木内 眞	渡邊 里実
★島田 奈美	澤口 実穂	Piano
杉浦 えみ		♪西田 未帆
増淵 美穂		
山崎 由佳		
山口 祐未子		

★パートリーダー ♪エキストラ

吹奏楽団オデッセイ

第19回 定期演奏会

2025年9月15日 月・祝

13:00 開演 12:35 - プレコンサート

板橋区立文化会館大ホール



Foreword

ごあいさつ

本日は、ご来場いただき、誠にありがとうございます。

この大ホールでの演奏会も3年連続となりました。毎年お越しくくださる皆様、今年からお越しいただきました皆様、ともに厚く御礼申し上げます。

楽団での最近の出来事をお話ししますと、一部打楽器が充実いたしました。2年前にチャイムを導入したところですが、今年はドラを追加しました。「本番当日にレンタルの楽器で一発勝負は大変」との団員の声を反映した形です。どの場面で使われているか、ご注目ください。

また、アンサンブル（少人数演奏）も活気を得てまいりました。毎年、春先に楽団内で発表会を行っており、定番の同一楽器単位のアンサンブルに加えて、木管五重奏、金管八重奏ほか、様々な混成チームで演奏を楽しんでいます。訪問演奏でも活躍しておりますが、この演奏会でも幕前・幕間で演奏させていただきます。こうした活動も楽団のエネルギーですので、大事にしていきたいと思えます。

さて、本日は、第3部のメイン曲として、「いにしえの時から」をお送りいたします。J.ヴァンデルロースト氏の楽曲はアマチュア吹奏楽の世界でも人気が高く、当楽団でも第15回に「スパルタクス」、第16回に「モンタニャールの詩」を演奏してまいりました。「いにしえの時から」は、美しい旋律と難しい技巧が組み合わさった大曲です。どこまで作り上げられるか、毎年のように今回もまた挑戦となりますので、どうぞ最後までお聴きください。

吹奏楽団オデッセイ 代表 若林孝介



Program

プログラム

第1部

蘇る火の鳥

作曲：S.ライニキー

落夏流穂

作曲：柳川和樹

海へ・・・吹奏楽の為に

作曲：三澤慶

交響詩「鯨と海」

作曲：阿部勇一

第2部

さんぽ

作曲：久石譲 / 編曲：佐藤博昭

「ラピュタ」～キャッスル・イン・ザ・スカイ

作曲：久石譲 / 編曲：森田一浩

ジャパニーズグラフィティ XVIII～アニメヒーローメドレー～

編曲：星出尚志

勇気 100%

作曲：馬飼野康二 / 編曲：野崎雅久

第3部

いにしえの時から

作曲：J.ヴァンデルロースト



rogram notes

曲目解説

第1部

蘇る火の鳥 作曲：S. ライニキー

演奏会の幕開けは、親しみやすい曲調で中高生からも人気の高い作曲家スティーヴン・ライニキー氏の曲“Rise of the Firebird”（原題）を選びました。

3分弱と短い曲ですが、迫力満点でダイナミックなファンファーレ、ホルンや木管楽器の印象的なメロディ、力強く華々しい打楽器など、吹奏楽の魅力が存分につまった一曲です。

曲の最後にはトロンボーングリッサンドからホルン、木管楽器が勢いよく駆け上がり、まるで火の鳥が飛翔するさまを思わせます。

このあとのプログラムが楽しみになるようなわくわく感をお届けできるよう、エネルギッシュに演奏いたします。

(文責：Cl. 山口祐未子)

落夏流穂 作曲：柳川和樹

本曲はゲーム音楽なども手がける柳川和樹氏が2006年に作曲した吹奏楽作品です。

夏の終わりから秋の始まりへと移り変わる、日本の美しい季節の情景を描いた吹奏楽作品で、「落夏」は過ぎゆく夏、「流穂」は風に揺れる稲穂を意味し、自然の豊かさと移ろいが込められたタイトルとなっています。そして、もう一つ。「らっかりゅうすい」という音の持つ、元の言葉の意味。

落花流水。つまり、相思相愛です。そこに至るまでの過程、人間の感情の変化を前述の風景に重ね、ひとつの物語を紡ぐように曲は進んでいきます。

曲の冒頭は、木管楽器やピアノによる繊細な響きで始まり、中盤では、力強く広がる旋律と豊かなハーモニーが展開され、やがてクライマックスへと高まりを見せます。場面転換が多く、壮かさ、哀愁、喜びなど様々な感情を表現しています。

夏の終わりの夕暮れを思わせる叙情的な旋律が和の情緒を重んじつつも、現代的で精緻なアレンジがなされておられ、演奏者にとっても表現力とアンサンブル力が問われる作品です。

日本の原風景を想起させる叙情的な音楽をお聞きください。

(文責：Cl. 佐藤なほか)

海へ・・・吹奏楽の為に 作曲：三澤慶

2006年度全日本吹奏楽コンクール課題曲として発表されたこの作品は、美しい海への憧れと、自然の持つ厳しさへの畏敬の念が込められた一曲です。

作曲のきっかけとなったのは、2004年12月に発生したスマトラ島沖地震と、それに伴う大津波でした。南国の楽園を一瞬にして飲み込んだ荒れ狂う海の姿に、作曲者は深い衝撃を受けたといいます。人間の営みや文化、命でさえも、自然の力の前では儂く脆い——その現実を突きつけられる出来事でした。

それでもなお、作曲者の心に残ったのは、やはり海への憧れでした。岩に砕ける波、静かな風、そして水平線を赤く染める朝日の情景。そうした美しく力強い「海」の姿が、本作には鮮やかに描かれています。

音の中に込められた祈りと敬意、そして自然の荘厳な美しさを、どうぞ感じ取っていただければ幸いです。

(文責：Sax. 渡部春菜)



交響詩「鯨と海」 作曲：阿部勇一

母なる海とそこに暮らす地球上最大の生物「鯨」をテーマにした曲です。

鯨の中には極海から赤道近くまで毎年数千キロを回遊する種類もあり、この曲はその鯨と一緒に旅をするように想像を膨らませて描かれています。

曲は、北極海の情景から始まります。氷の浮かぶ藍色の水面に鯨の尾びれがわずかに現れては消える様子が続き、一瞬の静寂ののち、突如想像をはるかに超えた黒い山のような巨体がスローモーションで目の前に現れる、という場面が描写されています。

そのあとのソプラノサクソのソロは、北の国の伝説をイメージした古風なメロディとなっています。

木管楽器、金管楽器へと繰り返しながら展開されるメロディで、作曲者の阿部勇一氏は鯨と海の自然の情景に加えて、鯨と人間の古い歴史の物語を描こうとしています。

長い旅の果てに、鯨は南の海へとたどり着きます。ゆるやかに上昇し続ける木管楽器のユニゾンのあと、全員で奏でる朗々としたメロディでは暖かい海の情景と新しい生命の誕生を歌います。

クライマックスでは、青い海、輝く太陽、生きとし生けるものすべてが尊く美しいこの世界への、湧き上がる感動と喜びを表現しています。

きらきら輝く水飛沫や海に差し込み揺れる光、目を閉じると具体的な情景が浮かび上がってくるような演奏ができるように、心を込めてお届けいたします。鯨と共にゆく壮大な旅をお楽しみください。

(文責：Cl. 山口祐未子)

第2部

さんぽ 作曲：久石譲／編曲：佐藤博昭

スタジオジブリ映画『となりのトトロ』の誰もが知る名曲「さんぽ」の吹奏楽アレンジです。軽快なテンポと親しみやすいフレーズが特徴で、木管楽器の可愛らしい合いの手や金管楽器の朗々としたメロディが一体となり、心弾む散歩の情景を描き出します。3番まで歌えるようにキーや曲の進行が原曲と同じ構成で作られているので、ぜひ声に出して（ちょっと恥ずかしいという方は心の中で）歌ってみてください！

（文責：Cl. 上家彩華）

「ラピュタ」～キャッスル・イン・ザ・スカイ 作曲：久石譲／編曲：森田一浩

1986年に公開されたスタジオジブリの名作『天空の城ラピュタ』は、天空の城を夢見る少年バズーと、空から降ってきた少女シータの冒険を描いた物語です。クライマックスの“滅びの呪文”「バルス！」の瞬間は、テレビ放送のたびにSNSが一斉に盛り上がり、サーバーが悲鳴をあげるほど…。「バルス祭」と呼ばれて恒例のイベント化しています。音楽は久石譲氏が担当し、物語の世界観を鮮やかに彩ります。今回は、壮大で感動的なシーンを中心にセレクトされたメドレーを演奏いたします。空飛ぶ島、ロボット兵、そして「バルス！」——数々の名場面を思い浮かべながらお聴きください。

（文責：Tb. 南雲茉美花）

ジャパニーズグラフィティ XVIII～アニメヒーローメドレー～ 編曲：星出尚志

どなたもどこかで必ず一度は耳にした事がある、世代を超えて楽しめるヒーローアニメの主題歌を盛り込んだメドレーです。ゲゲゲの鬼太郎ではおばけが出そうなおどろおどろしい代表のソロにもご注目。問答無用でワクワクするヒーローソングをぜひお楽しみください！

〈演奏曲〉

鉄腕アトム（「鉄腕アトム」より）

ガッチャマンの歌（「ガッチャマン」より）

ゲゲゲの鬼太郎（「ゲゲゲの鬼太郎」より）

CHA-LA HEAD-CHA-LA（「ドラゴンボールZ」より）

ウィーアー！（「ONE PIECE」より）

（文責：Sax. 山本茜）

勇気 100% 作曲：馬飼野康二／編曲：野崎雅久

1993年4月にNHKで放送をスタートした「忍たま乱太郎」のオープニングテーマです。初代・光 GENJI から始まり多くのアイドルグループによって時代ごとに歌い継がれていますので、多くの皆さまがご存じなのではないでしょうか。シンプルで前向きな歌詞が、子どもだけでなく、かつて子どもだったすべての大人に響く名曲です。吹奏楽ならではの華やかなハーモニーで、会場を笑顔と元気でいっぱいに行き届くように演奏いたしますので、ぜひ楽しんでお聴きください。

（文責：Cl. 山口祐未子）

第3部

いにしえの時から 作曲：J.ヴァンデルロースト

この曲は、現代までの音楽の発展を辿っており、教会音楽など単一の旋律だけが続く「モノフォニー」からカノンに代表される複数の旋律が孤立しながら調和する「ポリフォニー」、そして現代音楽で広く使われている、主旋律と対旋律、和声的な伴奏で構成される「ホモフォニー」への移り変わり、各時代で音楽の発展に貢献した先人達へのオマージュが表現されています。

曲は静寂の中、鍵盤楽器の不規則なリズムから始まり、ユーフォニウムがエコーのように主題を奏でます。そして、Motet（宗教音楽の一種）と題される場面から各セクションごとにフレーズが重なり、ポリフォニーの音楽が拡大していきます。激しい打楽器のアンサンブルから曲は徐々に速度を上げ、Estampie（13世紀～14世紀の器楽曲、ダンスの様式）へと移ります。反復する低音楽器のリズムと躍動的な高音楽器群の旋律が舞曲的で、単一の旋律が続くモノフォニーでありながら激しく複雑に聞こえる音楽となっています。

そしてユーフォニウムのソロから「Hommage à Adolphe Sax（アドルフサク스에捧ぐ）」と題された場面が始まり、現代の音楽に最も近くなっていきます。アドルフサクスは、サクソフーンや一部の金管楽器の原型となるサクソルン属を発明しており、現代の（英国式）ブラスバンドや吹奏楽の発展に大きく貢献したと言われていいます。美しいメロディとハーモニーから、作曲者によるアドルフサク스에への最大の敬意を感じられ、心温まる感動的な場面となっています。

やがて曲は激しさを増し、再び各セクションの旋律が重なり壮大にポリフォニーを奏で、スピードを上げて、輝かしく幕を閉じます。

作曲者と同様、私たちが先人達の功績のおかげで音楽に出会い、こうして楽しく演奏が出来ている事に感謝と敬意を表して演奏会の最後を締めくくりたいと思います。皆さまも音楽の歴史に思いを馳せながらぜひお楽しみください。

（文責：Sax. 山本茜）

